

横断型基幹科学技術研究団体連合  
2004年度 第5回理事会 議事録(抄録)

日時：2005年1月26日(水) 15:00 ~ 17:00

場所：キャンパスイノベーションセンター 602号室(東京・田町)

出席者：(敬称略、各50音順)

会長：吉川弘之

副会長：木村英紀

理事：木下源一郎、鈴木久敏、千原國宏、出口光一郎、土井美和子

監事：岩橋良雄、河野宏和

事務局：井上雄一郎、清水祐美

議事：

1. 文書による総会報告(事務局)

形の科学会の新規加入について文書による総会を開催し審議を行った結果、同学会の加盟が承認されたことが報告された。

2. シンポジウム開催報告(事務局)

1月に開催された2つのシンポジウムについて報告が行われた。

(1) 日本学術会議・横幹連合 共催シンポジウム(1月18、19日開催)

・参加者は延べ350名程度。

・会員学会を4テーマ分け事前討論の成果を発表した「横幹学術活動の報告」では、短い準備期間のなかで明確な答えを出すまでには至らなかったが、問題提起まではできた。今後、ここから調査研究委員会などの形で発展が期待される。

(2) 第1回技術シンポジウム(1月21日開催)

・まさに横幹的な内容のシンポジウムであり、参加費有料という初の試みにもかかわらず盛会。

3. 各委員会の活動報告と審議

(1) 企画委員会(木村副会長)

・災害リスクにかかわるプロジェクトの設置が提案され、審議を行った。

ア) 名称を「災害リスクの横断的研究ワーキンググループ」とする。

イ) 最初の1年間は文科省科学技術振興調整費に横幹連合として申請する活動を行う。

ウ) 1年目は、統計数理研究所の共同利用研究を申請して活動する。

エ) 本件は、学術委員会の管轄とする。

(2) 事業・広報委員会(事務局が代行)

・検討中の定例研究会(仮称：共通的なキーワードをあげて各学会がそれぞれの視点から発表、論議する)に対し、調査研究委員会やプロジェクトなどが生まれるきっかけとして期待される、ぜひ実現を、との意見があった。

(3) 学術委員会(鈴木理事)

・11月開催の第1回横幹連合カンファレンスに向け、プログラム委員会を組織し、原辰次先生(東京大学)の主導で準備に着手した。

(4) 出版委員会(木下理事)

・Newsletter No.4、No.5に、1月18、19日開催の日本学術会議・横幹連合共催シンポジウムの開催報告を掲載してはどうか、どの提案がなされた。

・今後のNewsletterについて、ホームページ上での発行に加え印刷版の発行を検討してはどうか、との意見があり、Newsletterの発行形態、役割について、出版委員会で検討していく。

(5) 産学連携委員会（館理事）

- ・第4回横幹技術フォーラム「持続可能な社会と産業界の役割を考える」（幹事企業：損害保険ジャパン）が2月16日に開催される。

(6) 知財・教育委員会（事務局代行）

- ・知財問題委員会として活動してきた成果を、最終報告書として取りまとめている。

(7) 総務・財務委員会（出口理事）

- ・事業費の支出に計測自動制御学会からの基金を充てることを予定している。
- ・横幹連合の各会員学会によるシンポジウム等事業の参加費について、優遇措置を検討している。横幹連合会員学会の会員には、主催学会の会員と同等の格安参加費を適用するなど、まずは計測自動制御学会で実現化を模索している。

4．第1回横幹連合カンファレンスについて（事務局代行）

開催案概要について説明がなされ、審議の結果承認した。

- ・第48回自動制御連合講演会との同時開催、との形態で開催する。
- ・横幹セッションを設け、150以上の論文提出を目指す。
- ・自動制御連合講演会との財政分担の比率を、横幹連合：自動制御連合講演会=3：7とする。
- ・本件は事業・広報委員会の管轄とする。実行委員長を鈴木久敏学術担当理事、実行副委員長を原辰次先生とし、プログラム委員会を構成し、4つのテーマ別討論グループより委員を選出しプログラム委員会を構成する。

5．2005年度定時総会の運営について

総会の開催日を2005年4月26日（火）とすることとした。

以上